

く ぼ 久保 ひろのり

市政報告 Vol. 14

2020
9/10

令和2年 9月定例会
一問一答

市民満足度向上宣言。
もっと、とやまは元気になる!!

エゴマの6次産業化の取り組みについて

久保

富山市えごま6次産業化は、中山間地域における農業の振興などを目指した環境未来都市のリーディングプロジェクトとしてスタートし、2011年12月に富山市が環境未来都市に選定され、今年の12月で10年目に突入する。

現在までの取組で中山間地の活性化の成果について問う。

環境部長

中山間地域においてエゴマの特産品化を図るため、温泉熱や太陽光を活用した植物栽培工場を建設し、耕作放棄地を活用した大規模な露地栽培を展開した。

生産、加工、商品化、流通などを総合的に推進する富山市えごま6次産業化推進グループを組織し、商品の研究開発や流通及び普及の促進を図っている。

富山産のエゴマオイルの生産量は年々増加し、本格的に販売を開始した平成28年度と比較し、令和元年度には3倍以上の売上げがあった

新たなエゴマ特産品の開発が契機となり、地元の高齢者等の雇用が創出された。

平成30年度の本市のエゴマの作付面積は、平成26年度の約4.2haから約30haと7倍以上に増え、全国の自治体の中で一番広い面積となっている。

久保

エゴマ栽培の単収(10a当たりの収穫量)目標について問う。

農林水産部長

本市の水稲並みの収入である約13万円を目標としている。エゴマを水田で栽培した場合、国の水田活用の直接支払交付金と市の薬用植物生産推進事業補助金により、10a当たり最大5万5千円が補助され、エゴマの販売額が7万5千円であれば水稲並みの収入が得られる。この金額を得るには、エゴマ1kg当たりの売渡価格を1,500円とすると単収は約50kgとなり、これを単収目標としている。

久保

富山市内のエゴマの単収は年々減少傾向にある。平成27年から5年で約3割程度まで低下した。この要因について問う。

農林水産部長

移植や直まき栽培で単収が伸び悩んでいる共通の要因は、1つに、個々の栽培技術に大きなばらつきがあること、2つに、本市に適應した栽培データが不足していることに加え、優れた栽培技術を生産者間等で共有する仕組みがないことが挙げられる。

加えて直まき栽培では、1つに、種まき直後に土が乾燥し種が深く入ると発芽不良を起こしやすいこと、2つに、発芽直後の除草対策が不十分な圃場では、雑草が繁茂しエゴマが生育不良となることが挙げられる。

久保

直まき栽培では1人当たりの管理・作付面積は、移植栽培よりも大きくなる。単収50kgの目標以下でも、利益を確保できる可能性がある。

実態を踏まえて、直まき栽培と移植とで別々の目標を設定すべきではないか。

農林水産部長

直まき栽培では苗作りの経費等が不要で労働時間が短縮できる一方、栽培管理が難しく、移植栽培に比べ単収が減少する傾向があり、別々の単収目標を設定したほうが、生産者が栽培に取り組む上で参考になる。

北海道の帯広えごま生産組合では直まき栽培でエゴマを生産し、平成30年度には栽培面積6.6haで約45kgの単収であった。本市においても直まき栽培技術が確立されれば、40kg程度の単収が確保できると考えている。

しかし、現在、本市の直まき栽培は適切な栽培方法を模索している状況であり、当面は30kgを単収目標とする。

ちなみに本市の試算では、直まき栽培では苗作りの経費を削減できることから、単収30kgでも経営は成り立つ。

久保

儲からないと農家の方は栽培をしようと思わない。エゴマの現状の売渡価格と、市がエゴマ生産を持続可能なものとするための売渡価格は幾らぐらいと考えているのか。



農林水産部長

全国的な売渡価格は、1kg当たり1,200円から1,800円程度となっており、本市においても概ね同様の売渡価格である。

エゴマの生産を持続可能なものにするための売渡価格は、目標とする10a当たりの収入13万円に対し、苗や肥料の購入費、機械の燃料費、機械の借上料、労賃等で約8万2千円となり、この経費で単収目標50kgを生産した場合、売渡価格は約1,650円となる。

富山えごまブランドの戦略について

久保

本年3月に発表した富山市えごま6次産業化推進プランでは、地域ブランドとして富山えごまの確立を目指している。富山えごまの認定条件について問う。

環境部長

富山えごまの定義は、1つには、富山市民が購入できる商品であること、2つには、富山市内に所在する事業者、個人が生産、製造、加工または販売している商品であること、3つに、富山県内で生産されたエゴマ、または富山県外産であっても認証機関による有機認証等の認定を受けた、または同等程度の品質のエゴマを使った商品であること、以上3つの要件を満たすもの。

久保

富山えごまのロゴは富山県の形をイメージして地域ブランドとして発信している、実は産地が海外や県外では、消費者からは理解されない。海外産、県外産のエゴマは富山えごまのブランドとは分けるべきではないか。

市長（森 雅志）

当初は純粋に富山産でいくと考えていた。

県外は、福島県を考えていた。風評被害で売れないという話を聞き、職員を福島県庁へ派遣したが、高く売れることが分かったら福島から入ってこなくなり、向こうで売っている。

海外産はネパール。ネパールでは水害で、耕作ができずに困っている地域があり、こちらからある事業者が種を

持って行って、向こうで作ってもらった。コロナで今は全くストップ状態になっている。

ネパール産を含むか、純粋な県内産でいくのか考え方の相違が出てくるが、会としてはそれをのみ込んで認定すると決めていただいた。

久保

SDGsの観点から、ネパールから輸入をするということ自体を反対するつもりはないが、それを富山えごまという表記をするべきではないと私は考える。

ネパール産のエゴマによって市内の農家の買取り価格に影響が出るのではないか。

市長（森 雅志）

ネパール産は1社だけが自社の判断で買い付けしている。残りは相対で取引されており、自然に相場ができてきている。富山の生産者の自然に出来上がる相場に影響を与えないと思わない。

久保

現在、牛岳温泉植物工場では、委託管理業者が規格外のエゴマの葉を販売した場合、1kg当たり2,200円を富山市に納めることになっている。

市は、市教育委員会に対して地産地消や食育、環境未来都市の取組から、給食で使うよう要望し、教育委員会は、適正な検討の上、エゴマを使った商品を購入している。ところが、オムレツやウインナーなど、どれもエゴマを含まない商品よりも1.6倍から2.8倍とかなり高額になっている。

給食の食材費は保護者からの給食費で賄われているので、市が得る1kg当たり2,200円分は保護者が実質負担していることになる。市が給食事業者に対し購入費用の一部を助成し、保護者の負担を軽減し、使用の頻度を上げるべきではないか。

環境部長

給食にエゴマを使用することは、エゴマの認知度の向上や消費の拡大など6次産業化の推進につながるだけでなく、児童・生徒の健康の増進にも大きく寄与することから、御提案のエゴマの納入に係る支援の在り方について、関係者間で協議しながら検討したい。

後援会への「寄付金」賛助をお願い致します

- 1口2,000円からの受付となります。
- 政治資金規正法により、匿名・企業・団体による寄附は認められていません。寄附はすべて個人名義でお願いします。
- 年間5万円を越えて寄附くださった方は、政治資金規正法第12条に基づき、寄附者の氏名、金額、住所、職業が政治資金収支報告書に記載され公表されます。
- 「大憲会」へのご寄附は、寄附金控除の対象となりません。

北陸銀行 富山南中央支店

● 口座番号 (普)6094287

● 口座名義 大憲会(ヒロノリカイ)

※恐縮ではありますが、振込手数料は別途ご負担願います。

お振込み口座のご案内

ひろのり
久保ひろのり後援会「大憲会」

〒939-8073 大町1区南部3-9-1

✉ kubo@rissikai.com

ホームページ <https://www.kubohironori.jp/>